

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4671000224
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム ほほえみ
所在地	指宿市東方湯の口314-1 (電 話) 0993-22-1030
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成21年4月21日

【情報提供票より】(21年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 5 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造2階建防火サイディング 造り 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分
------	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日1,000円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢 平均	87.9 歳	最低	77 歳 最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田畑クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に建ち、ホームの玄関周辺には季節の花々が植えてあり、ホーム横には菜園を設けるなど、利用者が和める環境が整っている。建物内は落ち着いた雰囲気、日中は利用者が過ごしやすく、職員と共に会話や歌を楽しむなど、支えあいながらも楽しくすごすことができる。同一法人に医療機関もあり、利用者の健康管理を行い家族からの信頼も厚い。また、利用者が楽しめる行事も多く、利用者・職員も明るく話しやすい雰囲気である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合った。評価結果は家族に送付するとともに誰もが閲覧できるようにリビングに設置されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者と職員が項目ごとに話し合った結果をまとめた。その作業は職員が外部評価の意義を確認し目指す方向や課題を考える機会になったと認識している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族代表、地域有識者、公民館館長、協力医療機関医師、市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情相談窓口についてはリビングに掲示し、利用開始時には文書により家族にお知らせしている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ入会し催事に積極的に参加しており、近隣の保育園、小中学校等との交流も図っている。公園が近くにあり、そこを利用される方々が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割が意識できるように法人としての作り上げた理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務の中で理念を意識して介護に取り組んでいる。また、作成された理念が職員や来所者の目につくように掲示を工夫している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ入会し催事に積極的に参加しており、近隣の保育園、小中学校等との交流も図っている。公園が近くにあり、そこを利用される方々が日常的にホームに立ち寄ってもらえる関係もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果は運営推進会議で参加者に報告するとともに、職員ミーティングで改善事項についてできることから改善するように話し合っている。評価結果は家族に送付するとともに誰もが閲覧できるようにリビングに設置されている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族代表、地域有識者、公民館館長、協力医療機関医師、市などからの参加があり、議事録より、事業所の報告のみではなく、出席者からの意見や助言などを今後の運営に活かそうとしている事業所の姿勢がうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁に市担当窓口や包括支援センターなどへ事務手続きやその他の機会に訪問し情報交換を行うなど、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理状況と利用者の様子を載せたホーム便りを毎月家族に配り報告している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話等で家族への報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口についてはリビングに掲示し、利用開始時には文書により家族に知らせている。また、職員が苦情等を把握した時には管理者や他の職員と共有し解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行い利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の外部評価で取り組み項目にあがっている。施設外研修については職員に紹介し、受講費用は事業所が負担するなどの配慮がなされている。ただ、施設内での研修については計画的な研修体系が整っているとは言いがたい。	○	職員が段階的に研修が行えるよう指針や計画の整備がのぞまれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、法人内ホームだけでなく、近場のホームの職員と交流する機会が確保できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方には管理者が出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。また、関係機関からのサマリーをもとに、場に馴染めるような配慮を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が過ごす中で得意なことや好きなことを見出し、声をかけ、協力しながら暮らしている。訪問時一緒に調理の下ごしらえや談笑する風景が見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時には本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などで職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は、介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見、要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行い、毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、モニタリングは月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外出・外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。また、法人内の医師が週に2回往診し、入院中の場合は面会や早期退院に向けての支援など臨機応変な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされ、その上で協力医療機関の支援をもらっている。受診時は書面を活用するなど確実な情報伝達に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員で作成した重度化や終末期に対する対応指針を定め、家族に説明し同意をもらっている。また、その後も本人や家族、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等は外来者の目に触れないように事務室に保管している。利用者への日頃の声かけについては個人を尊重しながらも親しみが持てるような声かけをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは本人の体調などを配慮し、外出やリハビリなど本人の意向を確かめながら決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理本を見ながら食事の希望を聞いたり、食欲を引き出す工夫をしたりしている。また自家菜園の旬の食材を利用し、下ごしらえを一緒に行うことで食への興味を持ってもらう工夫をされているが、テーブルが大きいため、職員と利用者が一緒に食事をするのができないよう見受けられた。	○	利用者と職員が同じテーブルで食事ができたり、お茶を飲んだりできるような工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	決まった入浴日があるが、それ以外の日でも入浴やシャワーなどの対応ができる。入浴を嫌われる方にはできるだけ声かけを工夫し気持ちよく清潔を保つようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための畑作業・家事や趣味(ぬり絵、絵画、手芸)を楽しんだり、お手伝いすることでそれぞれの役割を見出し参加する喜びを感じている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や天候に応じて畑の手入れ、買い物、散歩などで日常的に屋外に出るように支援している。また、月に2, 3回のドライブや地域行事への参加を支援するなど外出の機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は自由に玄関から外出できる。外出されるときには職員がさりげなくついて出たり、見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得ている。非常時の備蓄の管理もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1400～1600キロカロリーの食事提供と水分1000ccを目安にしている。食事の量は個人別の記録に全員記録され、排泄状態も参考にしながら健康状態が把握されている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には手芸品や絵画が飾られ、明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者には、ソファなど思い思いの場所でくつろげる配慮がなされ、利用者や職員が使いやすいように工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや思い出の写真をはじめ、テレビや趣味の品など利用者の馴染みの道具が多く見られ、利用者が自宅でくつろいでいるような気持ちにさせる配慮がなされている。		